2018年度授業改善研修参加レポート　　所属（国際コミュニケーション）　氏名　永田　道弘

「研修会等名称」
2018 年度第 24 回 FD フォーラム「大学におけるダイバーシティ」
（公益財団法人大学コンソーシアム京都）

場所：立命館文学
期間：2019 年 3 月 2、3 日

１．研修の内容

一日目（3 月 2 日）はシンポジウム①「大学に集う人々の多様性にいかに向き合うか」を受講した。報告者はウスビ・サコ京都精華大学学長他 4 名。テーマは人種、民族、国籍、ジェンダー、セクシュアリティ等多岐にわたり、これからの大学にもとめられる多様性について議論が活発に行われた。各報告の内容は以下の通りである。「大学における多様性の課題と意識改革―留学生から大学教員までの個人的経験を通して」（ウスビ・サコ京都精華大学学長）、「LGBT が思春期・青年期に直面する生きづらさ」（日高庸晴宝塚大学看護学部教授）、「大学に集う人々の多様性にいかに向き合うか―合理的配慮は「転ばぬ先の杖」か？」（松波めぐみ立命館大学生在学研究センター客員協力研究員）、「大学に集う人々の多様性にいかに向き合うか―周縁で考える少数派と多数派のこと、そして、多様性を担保することのいみ」（あかたちかこ大阪市立阿武山学園）

二日目（3 月 3 日）は第 2 分科会「学部・学科教育の改革・改善をいかに進めるか」に参加。報告者は松浦京子京都橘大学文学部長や山本啓一北陸大学経済経営学部長他 2 名。当分科会では学部や学科といった単位で教育改善をいかにすすめるべきかといったミドルレベルの FD について議論がなされた。報告者がそれぞれが所属する学部・学科の事例を報告し、それを出発点として組織マネジメントのあり方についてその可能性と課題の共有がはかられた。各報告の内容は以下の通りである。「京都橘大学文学部の取り組み―基礎力をはぐくむ文学部教育への改革」（松浦京子京都橘大学文学部長）、「学部マネジメントの手法」（山本啓一北陸大学経済経営学部長）、「学部・学科教育の改善・改革をいかにすすめるか」（藍野大学医療保健学部理学療法学科平山朋子・斎藤有吾）

２．研修の成果

一日目のシンポジウムではウスビ・サコ京都精華大学学長の発表が個人的には一番有益であった。多様な属性をもつサコ氏（アフリカのマリ共和国出身、イスラム教徒、バンバラ語・フランス語・英語・中国語・日本語を操るマルチリンガル）は、自身の経験を交えながら、教育の場においても、バックグラウンドや属性を理由にした差別・排除が存在し続けるとし、そのような現実を変革するためには単に制度や仕組みを整備するだけでは不十分で、まず最初に大学の構成員の意識を変えていく地道な努力が必要であると力説された。

二日目の分科会では、山本啓一北陸大学経済経営学部長の発表から多くの示唆を受けた。氏によれば、多くの大学では定員充足率や退学率の数字を向上させるために、教員の学生に対するパーソナル支援強化や、正課教育以外のプログラムの導入を次々と打ち出す傾向にあるが、一方で科目が拡散したカリキュラムや教員の協働の欠如といった諸問題は放置されたままとなってしまっている。このような状況を打破するためには学部マネジメントの観点から、以下の 5 つの課題に優先的にとりくむべきとされた。

１．　学部ミッションの再定義
２．　肥大化した正課外活動やパーソナル支援の絞り込み
３．　教員協働による教育プログラムの導入
４．　教員間のフラットな関係作りと学部 FD の充実
５．　高大接続をふまえた高校との関係の再構築

３．授業への研修成果の反映状況

私が所属する国際教養学科では異文化理解を通じて国際コミュニケーションの習得を謳っており、サコ氏の経験はまさにその理念と合致する。機会があれば、是非ともサコ氏を講演に招き、教員と学生における多様性への意識向上をはかる機会としたい。

山本氏の提言を参考にし、国際教養学科における初年次の導入教育を充実させていきたい。「入門ゼミ」は現状では各担当教員の最良に任されているが、可能な限り教育内容のすり合わせを行い、教員がチームで学生の指導にあたれる体制を築くことが急務である。将来的には学科独自のテキストを作成することが理想であろう。そうすることで教員一人一人の負担を抑え、各自の授業の準備や研究に割く時間の確保が可能となろう。集団体制が機能すれば、学生情報の共有ができ、担任制における一人の教員にかかる負荷を減ずることもできよう。また高大接続をふまえた高校との関係に関しては、例えば高校生対象の模擬授業を従来の大学教育の宣伝でなく、入学前教育の一環として行うことも有益であり、模擬授業を通じて学部・学科のアドミッションポリシー等を高校生に意識してもらうことができると考える。

学 部 長	学習・教育支援センター委員長	学習・教育支援センター委員会	名古屋教務課長	係